異例のスタート！問い直されるこれまでの在り方

こんな時だからこそ、ともに頑張りましょう！

はばたき

道高教組札幌支部
札幌市中央区大通西１２丁目
高等学校教職員センター３階）
TEL　０１１－２７１－５８７５
FAX　０１１－２７１－５８９５

未曾有の混乱のなか、手探りしながら新学期がスタートしたのも束の間、緊急事態宣言の全国への拡大により、札幌石狩圏は再び再休校に入り、先の見通しが立たない状態が続いています。

５月7日から学校を再開できるのか？できるとすれば3密を避けるために分散登校や時差登校をどのようにすすめるのか？マスクや消毒アルコールなど校内に感染防止に必要な物品が十分に確保されているのか？校内で症状が出た場合の隔離体制があるのか？etc.

考え出したら切りのないくらい多くの課題が山積していますが、学級定員や教員定数など、これまで同様の教育条件で、本当に安全に学校を再開できるのでしょうか。多少具合が悪くても無理して勤務することが美徳とされる風潮もありましたが、今では危険極まりない判断だったと評価されるのではないでしょうか。コロナウィルス禍は、これまでの学校のあり方や教職員の働き方を根本的に問い直していると言えます。

道高教組札幌支部はこれまでも、教職員の勤務条件を改善することは子どもたちの教育条件を整備することであるとの立場から、運動をすすめてきました。おりしも今年度は1年単位の変形労働時間制の条例化や出退勤管理システムの導入がすすめられようとしています。新共通テストをどうするかについても議論をすすめなければなりません。特別支援学校の過密・狭隘化はまったなしに深刻です。危機管理の視点を重視して、危機に直面した時にも対応が可能な学校や教育の姿を探りつつ、これまでの要求や運動を再構築していかなければならないと考えています。

今年度もよろしくお願いします。

風通しの良い職場こそ危機管理にふさわしい

文科省・道教委の指示に従うだけでは、状況は遅々として改善されません。生徒や保護者と接している現場の目線から声をあげることが、世の中を動かす第一歩であることを私たちは昨年来の情勢から感じ取っています。危機的な状況にあっても子どもたちと教職員のいのちと健康、安全と安心を守り抜くことができる学校や教育をめざして、声をあげ続けましょう。上意下達ではなく、話し合いのしやすい風通しの良い職場環境を意識的につくることは危機管理にとっても大切です。

高教組札幌支部は今年度もこの『はばたき』で職場のみなさんに必要な情報を提供し、教職員の働く条件、子どもたちの教育条件を改善し、平和と民主主義を守る運動に全力でとりくむ決意です。現場の声を束ね文科省や道教委へ届ける役割を積極的に果たしていきますので、ご意見やご感想をお寄せいただければ幸いです。

さて、職場の要求を実現する運動は組合員が頑張ることはもちろんですが、多くの教職員の皆様のご支援・ご協力がなければすすみません。学校が未曾有の危機的状況に直面している時こそ、教職員が協力し合って多様な力を発揮し合うことが求められるのではないでしょうか。道高教組への加入でお一人おひとりの力を寄せていただくよう心より訴えるものです。ともに頑張りましょう。

私立高校授業料実質無償化がスタート

異変続く札幌石狩圏の高校入試

一刻も早く！ウィルスに負けない少人数学級の実現を！

昨年来、文科省は自身のHPの「高校生等への修学支援」サイトで、「私立高等学校授業料の実質無償化」について、リーフレットを掲載し、以下のように打ち出しています。「令和2年4月から私立高校授業料実質無償化がスタート　高等学校等就学支援金（返還不要の授業料支援）の制度改正で、私立高校等に通う生徒への支援が手厚くなります！」

文科省の高等学校等就学支援金は、公立高校へ通う生徒に対しては11万8千8百円なのに対し、私立高校の場合は年収約590万円未満世帯では39万6千円が支給されるようになりました。この動きは確実に今年度入学生の公立高校の入試倍率に変化を与えています。ここ数年、私立特進コースを担保して「進学校」へチャレンジする流れが定着するとともに、公立「中堅校」「進路多様校」の倍率低下が目立っています。今年度入試では、全日制普通科16校589人の2次募集が行われ、昨年度に比べて130人増の大幅増となりました。2次募集の激増」の背景に就学支援制度の拡充が影響したことは間違いありません。公立高校の学級削減を大いに推進する高校配置計画案が示される可能性が極めて高い状況です。

しかし、現在のコロナウィルス感染症対策を考えたとき、3密状態を生み出す最大の要因の一つは40人学級というクラスサイズです。少人数学級を一刻も早く実現することは、長期戦が予想される防止対策から今回は「書面開催」となります。4月下旬に各教育局に会議の資料が送付され、5月中旬に意見集約、6月2日開催の教育委員会で主な意見及び道教委の見解が公表される運びです。傍聴希望者には高校教育局の課・石狩教育局のHPを通じた案内がなされます。例年参加者の意見より、傍聴者の意見の方が多い石狩学区の地域別検討協議会です。是非多くの方が、傍聴を希望され資料を手にして、機械的な学級削減ではなく、ウィルス感染に負けない少人数学級の実現をと、意見を石狩教育局へ集中させましょう。

現在各職場では、教育無償化の推進、教職員定数の抜本的改善、教育予算の増額を求める「かがやけ！みんなのえがお」を回覧中です。抜本的に教育予算を増額させるために是非ご協力をお願いします。また、まもなく特別支援学校の設置基準策定を求める署名、秋には毎年恒例の教育全国署名にもとりくむ予定です。これらの署名にもお力をお貸しください。

署名の締め切り６月末までです。
１人でも多くのご協力を！！

佐藤嘉大教育長急逝

4月4日、コロナウィルス感染症対策の真っただなか、道教委の佐藤嘉大教育長が循環器不全によってお亡くなりになりました。

一斉臨時休校や分散登校を全国に先駆けて実施するなど、多忙な任務の最中でご逝去は、過労死事案を疑わせるものと言えます。

立場は違えども、子どもたちのために奮闘された事にあらためて敬意を払うとともに、謹んで、心からのお悔やみを申し上げます。